

まほら

2024.03 No.11

春の訪れ

桜のつぼみが咲き始め、春の足音も近づいてきました。

さて、今回が今年度最後の図書部だより『まほら』となりました。



皆さんは春といえば何を思い浮かべますか？

春は出会いや別れの季節です。現在、まほら館では、人と本との出会いをテーマとした本の特設コーナーを設置しています。4月になったら、是非借りてください！！

皆さん、1年間本と触れ合う時間はありましたか。図書部では、図書部だより『まほら』の発行、出張まほら館や校内ビブリオバトルの開催、SHRでのお知らせなどを行ってきました。引き続き、4月からもみなさんが本を身近に感じられるように様々な活動をしていきたいと思えます。

さいごに・・・

蔵書点検のための本の返却のご協力ありがとうございました。

本の紹介



羊と銅の森 / 宮下 奈都 (文春文庫)

一人の青年が成長する姿を温かい筆致で描いた感動作。
主人公の外村は、調律師になりたいという気持ちがあった。調律師として働き始めた時に、調律師の板鳥と出会い、物語が始まる。



水を縫う / 寺地 はるな (集英社)

「男なのに」刺繍が好きな弟の清澄
「女なのに」可愛いものが苦手な姉の水青
「愛情豊かな母親」になれなかったさつ子
「まっとうな父親」になれなかった全と、その友人・黒田
「いいお嫁さん」になるように育てられた祖母・文枝
「普通」じゃない、家族の物語。